

株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
期末配当金受領株主確定日	3月31日
中間配当金受領株主確定日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人および 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 TEL 0120-094-777(通話料無料)
上場証券取引所	東京証券取引所および大阪証券取引所
公告の方法	電子公告により行います。 公告掲載URL http://www.daiso.co.jp/ (ただし、やむを得ない事由により電子公告を行うことができない場合、 日本経済新聞に掲載する方法により行います。)

(ご注意)

- 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国本支店でもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行全国本支店でお支払いいたします。

単元未満株式をお持ちの株主さまへ

当社は、1単元(1,000株)に満たない当社株式を所有されている株主さまの便宜をはかるため、「単元未満株式の買増・買取制度」を実施しております。お手続きなどの詳細に関しましては、証券会社にて株式を管理されている場合はお取引先の証券会社に、特別口座にて株式を管理されている場合は、三菱UFJ信託銀行にお問合せください。

当社グループをより知っていただくために、ホームページもご活用ください。

- 最新の情報はこちらをご覧ください。
ホームページアドレス <http://www.daiso.co.jp/>



トップページ

株主のみなさまへ

第156期報告書

平成22年4月1日から平成23年3月31日まで



化学でもっといいこと。

 **ダイソー株式会社**
DAISO

証券コード 4046 <http://www.daiso.co.jp/>

株主のみなさまへ

株主のみなさまには、平素より格別のご支援を賜り厚くお礼申し上げます。

本年3月の東日本大震災により被災されましたみなさまには、心よりお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復興をお祈り申し上げます。

さて、当社グループは、第156期(平成22年4月1日から平成23年3月31日まで)の決算を行いましたので、ここに事業の概況をご報告申し上げます。

平成23年6月

代表取締役
社長執行役員 **佐藤 存**



第156期の業績概要

当期のわが国経済は、急激な円高や原油価格の高騰および雇用環境の低迷など厳しい環境が続きましたが、アジアを中心とした新興国向けの輸出や政府による経済対策などが下支えとなり、景気は回復傾向にありました。しかし、3月11日に発生しました東日本大震災という未曾有の大災害が発生したことにより、景気見通しは突如として大きく悪化しました。

このような状況下で、当社グループは、機能化学品への積極的な投資、海外ネットワーク拡充による営業活動の強化、徹底的な固定費削減による損益分岐点の大幅な引き下げおよび基礎化学品を中心とする生産効率向上のためのプロセス改善などを実施しました。また、組織面では次世代の収益の柱と期待する電極事業と医薬品原薬・中間体事業をそれぞれ子会社へ譲渡し、新組織による成長戦略をスタートさせました。さらに営業本部制の導入と研究開発のR&D本部への組織改革を実施するとともに、これらを迅速に推進するために執行役員制度を導入いたしました。

以上のように収益体質の強化と機構改革による競争力強化に注力しました結果、売上高および経常利益は過去最高となりました。

なお、期末配当金につきましては創立95周年記念配当1円を加え1株につき4円とし、中間配当金の3円とあわせ、1株につき7円とさせていただきます。

今後の対処すべき課題

今後の見通しにつきましては、中国などの新興国への輸出の増加や米国市場の回復により、景気は緩やかに持ち直していくことが期待されていました。しかし、東日本大震災の発生による生産設備へのダメージ、さらに電力など供給面でのボトルネックによる影響が懸念されます。また、家計の消費マインドも大幅に悪化し、さらには原子力発電所の放射性物質の漏出事故による風評被害といった影響も想定され、当社グループを取り巻く経営環境は不透明感を増し、厳しい状況が続くものと思われます。

このような情勢のもと、当社グループは、創立100周年の平成27年度に「経常利益100億円」を目指す長期経営目標「Target-100」の実現に向け、平成23年度を

初年度とする3か年の新中期経営計画『DYNAMIC ACTION-13』を策定しました。新中期経営計画では、平成25年度に「売上高1,100億円、経常利益80億円」の達成を目標とし、コア事業の強化と次世代事業の育成により事業基盤の拡充を図るとともに、新規事業の創出、グローバル戦略およびコーポレート戦略の推進により新たな成長基盤の構築に取り組んでまいります。

当社グループは、企業の社会的責任を重視し日々の事業活動において法令遵守に積極的に取り組み、内部統制システムを強化しコンプライアンス体制の一層の充実を図り、社会に信頼される企業グループを目指してまいります。

環境・安全と製品の品質の確保につきましても、レスポンス・ケア活動とISO活動を中心に万全を期すとともに、環境負荷低減のために省資源・省エネルギー活動に積極的に取り組み、地球環境と調和した企業の発展を図ってまいります。

株主のみなさまにおかれましては、今後とも一層のご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

企業理念

1. 私たちは化学を中心とする事業を通じてより豊かな社会の実現に貢献します
2. 私たちは世界に信頼される技術と製品を創造します
3. 私たちは情熱と誠意をもって行動します

基礎化学品

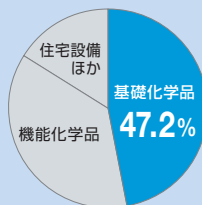
かせいソーダは、緩やかに需要が回復するとともに営業力強化による市場開拓の推進により販売数量が増加したため、売上高は増加しました。無機塩化物につきましては、塩酸、次亜塩素酸ソーダ、亜塩素酸ソーダは、需要増により販売数量が増加しましたので、売上高は増加しました。

エピクロルヒドリンは、エポキシ樹脂の需要回復にともない販売数量が増加するとともに、原燃料価格の高騰にともない価格改定を行いましたので、売上高は増加しました。

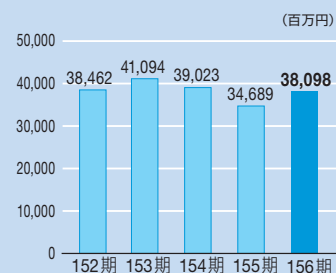
以上の結果、基礎化学品の売上高は、380億9千8百万円と前期比9.8%の増加となりました。

売上高：
380億9千8百万円
9.8%増加

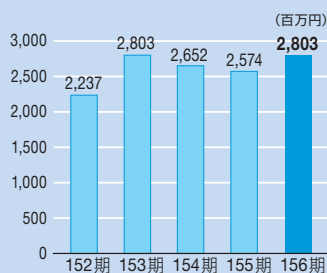
売上高
構成比



売上高(連結)



営業利益(連結)



住宅設備ほか

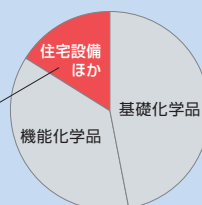
化粧板などのダップ加工材は、新規住宅着工件数がリーマンショック後緩やかに増加したことにより売上高は増加し、生活関連商品も好調に推移しましたので、売上高は増加しました。

エンジニアリング部門は、設備工事の受注件数を伸ばしてきましたが、東日本大震災の影響などにより工事の完成が遅れたため売上高は微増に留まりました。

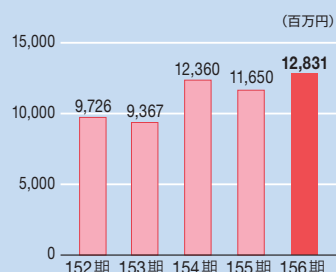
以上の結果、住宅設備ほかの売上高は、128億3千1百万円と前期比10.1%の増加となりました。

売上高：
128億3千1百万円
10.1%増加

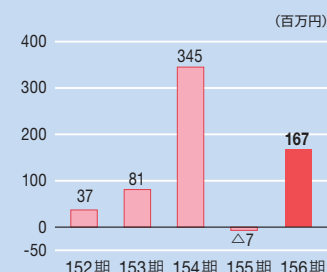
売上高
構成比



売上高(連結)



営業利益(連結)



機能化学品

アリルエーテル類は、シランカップリング剤用途および水処理剤用途が堅調に推移したため、売上高は増加しました。

エピクロルヒドリンゴムは、自動車用途では韓国・新興国向けが好調に推移し、欧米向けも回復基調で推移するとともに、OA機器用途も本格的な生産回復により需要が堅調に推移したため、販売数量が増加し、売上高は増加しました。

ダップ樹脂は、UVインキ用途向けが堅調に推移したものの成形材料用途向けが国内外ともに伸び悩みましたが、ダップモノマーが、欧米・中国向けの絶縁ワニス用途向けで大幅に増加したため、売上高は増加しました。

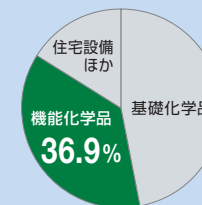
省エネタイヤ用改質剤は、自動車生産台数の回復が順調に進んだため、売上高は増加しました。

液体クロマトグラフィー用シリカゲルは、分析用シリカゲルが堅調に推移するとともに、分取用シリカゲルでは医薬品精製用途として、米国・韓国・インド向けを中心に輸出が好調に推移したため、売上高は増加しました。

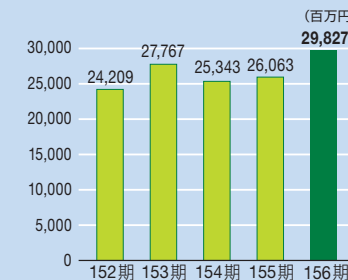
電極は、鉄鋼需要が回復したため、売上高は増加しました。

売上高：
298億2千7百万円
14.4%増加

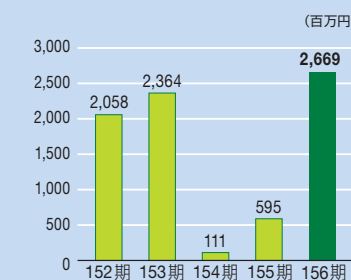
売上高
構成比



売上高(連結)



営業利益(連結)



ダイソーグループのセグメントと主要製品

●セグメント

●主要製品

基礎化学品

かせいソーダ、塩酸、液化塩素、塩素ガス、次亜塩素酸ソーダ、亜塩素酸ソーダ、塩素酸ソーダ、かせいカリ、水素ガス、エピクロルヒドリン、アリルクロライド、ジクロロプロペン、塗料原料、接着剤原料など

機能化学品

アリルエーテル類、エピクロルヒドリンゴム、ダップ樹脂、省エネタイヤ用改質剤、液体クロマトグラフィー用シリカゲル、レンズ材料、感光性樹脂、カラーレジスト、電極、医薬品原薬・中間体、光学活性体、資源リサイクルなど

住宅設備ほか

ダップ加工材、住宅関連製品、健康食品、化学製品の輸送・貯蔵、化学プラント、環境保全設備建設など

中期経営計画「DYNAMIC ACTION-13」について

DYNAMIC ACTION-13

躍進、革新、挑戦 (2011年度～2013年度)

当社グループは、創立100周年の2015年度に「経常利益100億円」を達成する長期経営目標「Target-100」を掲げております。

今般、「Target-100」に向けた基礎固めを担う、重要な3年間の実行計画として、新中期経営計画「DYNAMIC ACTION-13」(2011年度～2013年度)を策定いたしました。

『Target-100』の 実現を目指して 次のステージへ



連結業績目標

売上高	1,100億円	新製品売上高比率	10%
経常利益	80億円	海外売上高比率	25%
ROA	9%		

基本方針

- 1 コア事業の強化
- 2 次世代コア事業の育成
- 3 新規事業の創出
- 4 グローバル戦略の推進
- 5 コーポレート戦略の推進

1 コア事業の強化

■ 基礎化学品

クロール・アルカリ事業を中心に革新的なコスト削減と生産体制の再構築を実施し、グローバルコスト競争に打ち克てる体制を構築します。

特にアリルクロライド・エピクロルヒドリン(AC・EP)事業は、生産能力を増強しアジア市場への事業展開を図るとともに、アリルエーテル類などの誘導製品の拡大に対応したAC・EPチェーンの一段の強化を行います。

■ 機能化学品

アリルエーテル類、エピクロルヒドリンゴム、ダップ樹脂、液体クロマトグラフィー用シリカゲルを中心に新興国市場に軸足を置き、マーケティング力の向上により、各国の市場ニーズに対応した柔軟な価格戦略と品質戦略を推進するとともに、世界的な需要を先取りした積極的な設備増強を実施します。



水島工場



松山工場



エピクロルヒドリンプラント
松山工場

2 次世代事業のコア事業への育成

サンヨーファイン株式会社の医薬品原薬・中間体事業とダイソーエンジニアリング株式会社の電極事業を次世代事業と位置付け、事業規模の飛躍的な拡大を図り、コア事業へ早期に育成し、「Target-100」に向けた新たな牽引力とします。

■ 医薬品原薬・中間体事業

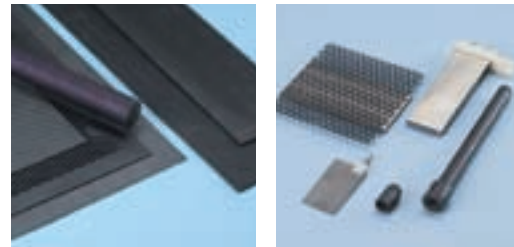
国内市場に軸足を置き、バイオ技術と有機合成技術を駆使し、成長性の高い分野に集中した新製品開発を行います。

■ 電極事業

これまで蓄積してきた電気分解技術を活用し、中国市場のソーダ電解向け拡販を中心に海外展開を推進します。また、成長マーケットである水・環境分野での既存環境技術の拡販、レアメタル回収事業、蓄電デバイス用部材などの新製品開発を進めます。



医薬中間体プラント



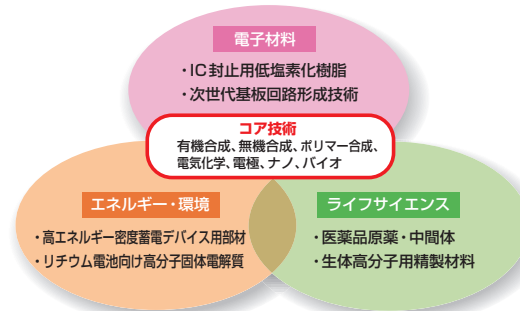
電極 各種製品

3 新規事業の創出

■ 事業化を優先した研究開発を行なうことにより、「電子材料」「エネルギー・環境」「ライフサイエンス」の3分野を中心に、「Target-100」に向けた新たな成長ドライバーの開発と事業化を推進します。

■ 既存事業においても新規プロセス、新規グレード、新規用途を開発することにより、新製品売上高比率10%を目指します。

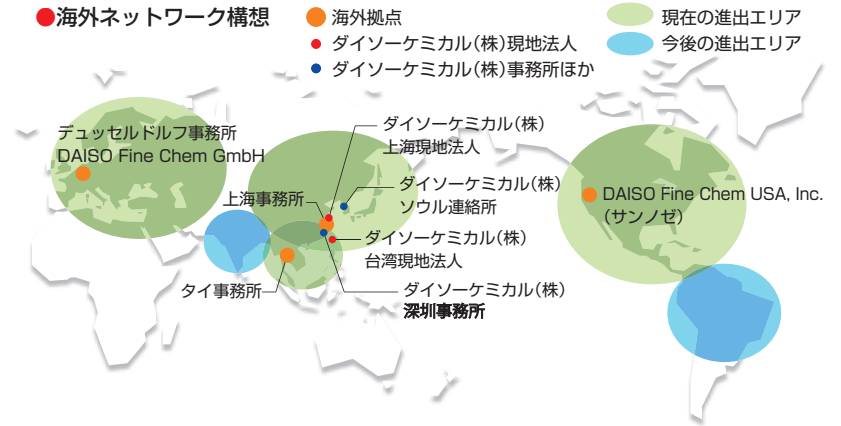
● コア技術と研究開発ポートフォリオ



4 グローバル戦略の推進

■ 営業拠点、生産拠点の拡充によりグローバル展開を加速させ、海外売上高比率25%を目指します。

■ ダイソーケミカル株式会社を情報発信基地として海外ネットワークの強化に取り組み、ダイソーグループの海外拠点、人材、技術、情報を有効活用し、総合的なマーケティング力を向上させます。



5 コーポレート戦略の推進

■ 人財の育成

新しい世界観、戦略を創造できる人財を育成します。

■ 技術力の強化

コア技術の伝承を行なうとともに、高度化技術と新技術の獲得により、技術プラットフォームを強化します。

■ IT基盤の拡充

事業拡大に向けたインフラの強化とコーポレートガバナンスの充実を図るため、IT基盤を拡充します。

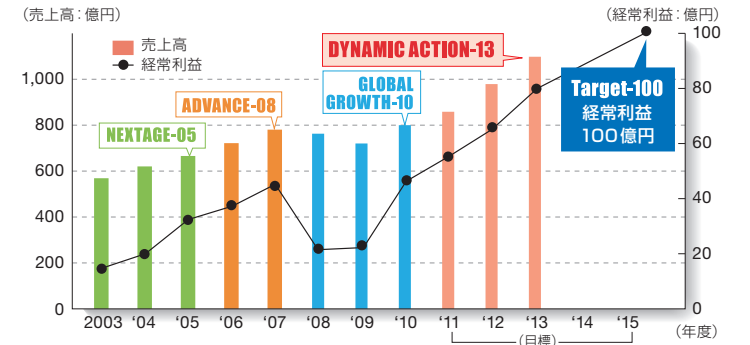
● 行動指針(3つのC)

CHALLENGE チャレンジ精神であらゆる困難を打破する

CREATE 創造力を発揮し新たな事業領域を切り拓く

COMPETE 競争力の高い製品でグローバル競争に打ち克つ

● 売上高、経常利益計画



連結財務諸表

連結貸借対照表(要約)

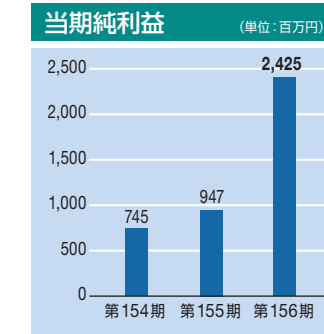
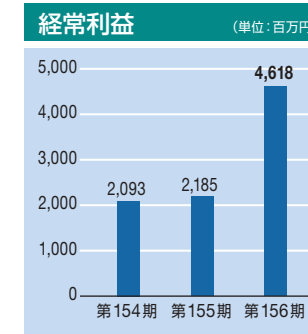
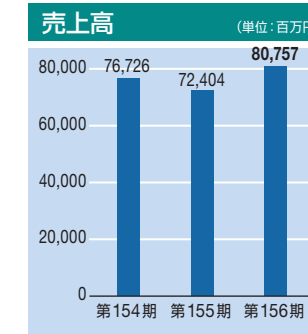
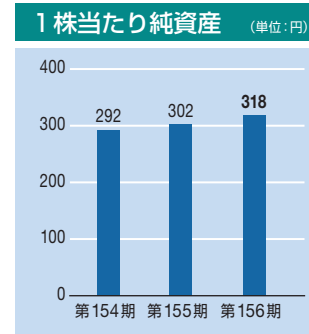
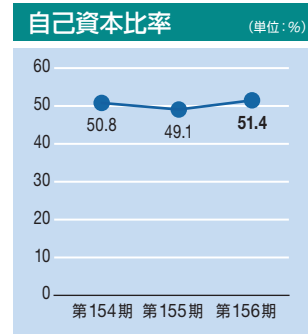
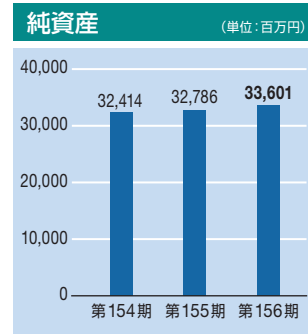
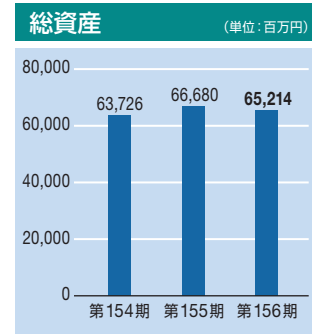
(単位:百万円)

科目	前連結会計期末 (平成22年3月31日現在)	当連結会計期末 (平成23年3月31日現在)
資産の部		
流動資産	36,679	37,613
固定資産	30,000	27,600
有形固定資産	16,847	15,287
無形固定資産	764	606
投資その他の資産	12,388	11,706
資産合計	66,680	65,214
負債の部		
流動負債	21,469	26,371
固定負債	12,424	5,241
負債合計	33,893	31,612
純資産の部		
株主資本	31,495	32,402
その他の包括利益累計額	1,217	1,128
新株予約権	72	70
純資産合計	32,786	33,601
負債純資産合計	66,680	65,214

連結損益計算書(要約)

(単位:百万円)

科目	前連結会計期間 (自平成21年4月1日 至平成22年3月31日)	当連結会計期間 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)
売上高	72,404	80,757
売上原価	60,807	66,595
売上総利益	11,596	14,162
販売費及び一般管理費	9,408	9,691
営業利益	2,188	4,470
営業外収益	334	416
営業外費用	337	267
経常利益	2,185	4,618
特別利益	36	10
特別損失	530	863
税金等調整前当期純利益	1,691	3,765
法人税、住民税及び事業税	973	1,348
法人税等調整額	△229	△8
当期純利益	947	2,425



連結キャッシュ・フロー計算書(要約)

(単位:百万円)

科目	前連結会計期間 (自平成21年4月1日 至平成22年3月31日)		当連結会計期間 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)	
営業活動によるキャッシュ・フロー		7,012		5,370
投資活動によるキャッシュ・フロー		△1,510		△1,312
財務活動によるキャッシュ・フロー		△3,363		△4,726
現金及び現金同等物に係る換算差額		△70		△88
現金及び現金同等物の増減額		2,069		△757
現金及び現金同等物の期首残高		4,437		6,522
非連結子会社との合併に伴う現金及び現金同等物の増加額		15		—
現金及び現金同等物の期末残高		6,522		5,764

連結株主資本等変動計算書

当連結会計期間(自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)

(単位:百万円)

項目	株主資本					その他の包括利益累計額			新株予約権	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ 損益	その他の包括利益 累計額合計		
平成22年3月31日残高	10,882	9,394	11,998	△778	31,495	1,224	△6	1,217	72	32,786
連結会計期間中の変動額										
剰余金の配当			△650		△650					△650
当期純利益			2,425		2,425					2,425
自己株式の取得				△869	△869					△869
自己株式の処分		0		0	0					0
株主資本以外の項目の連結 会計年度中の変動額(純額)						△92	3	△89	△1	△90
連結会計期間中の変動額合計	—	0	1,775	△869	906	△92	3	△89	△1	815
平成23年3月31日残高	10,882	9,394	13,773	△1,647	32,402	1,131	△2	1,128	70	33,601

(注)連結貸借対照表、連結損益計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結株主資本等変動計算書に記載の金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

株式の状況

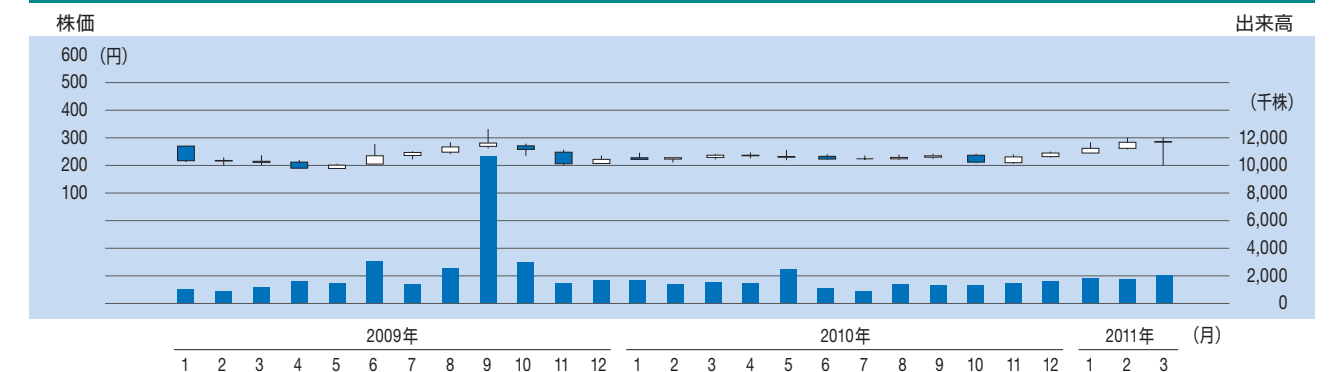
発行可能株式総数 ----- 300,000,000株
 発行済株式の総数 ----- 111,771,671株
 株主数 ----- 8,172名

大株主一覧(上位10名)

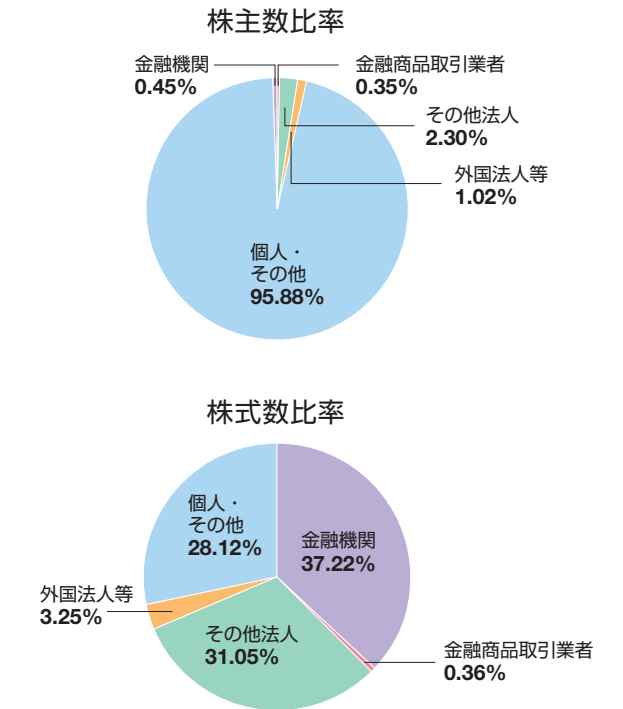
株主名	持株数(千株)	出資比率(%)
日本興亜損害保険株式会社	4,692	4.45
株式会社三菱東京UFJ銀行	4,384	4.16
株式会社池田泉州銀行	4,240	4.02
株式会社福岡銀行	3,813	3.61
株式会社伊予銀行	3,744	3.55
日本生命保険相互会社	3,542	3.36
帝人株式会社	3,393	3.21
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	3,368	3.19
株式会社みずほコーポレート銀行	3,348	3.17
旭化成ケミカルズ株式会社	2,933	2.78

(注)出資比率は、発行済株式の総数から自己株式数(6,366,485株)を控除して計算しております。

株価および出来高の推移



株主分布状況



社 名 ----- ダイソー株式会社
DAISO CO.,LTD.
U R L ----- http://www.daiso.co.jp
創 立 ----- 1915年(大正4年)10月26日
資 本 金 ----- 108億8千2百万円
連結従業員数 ----- 761名

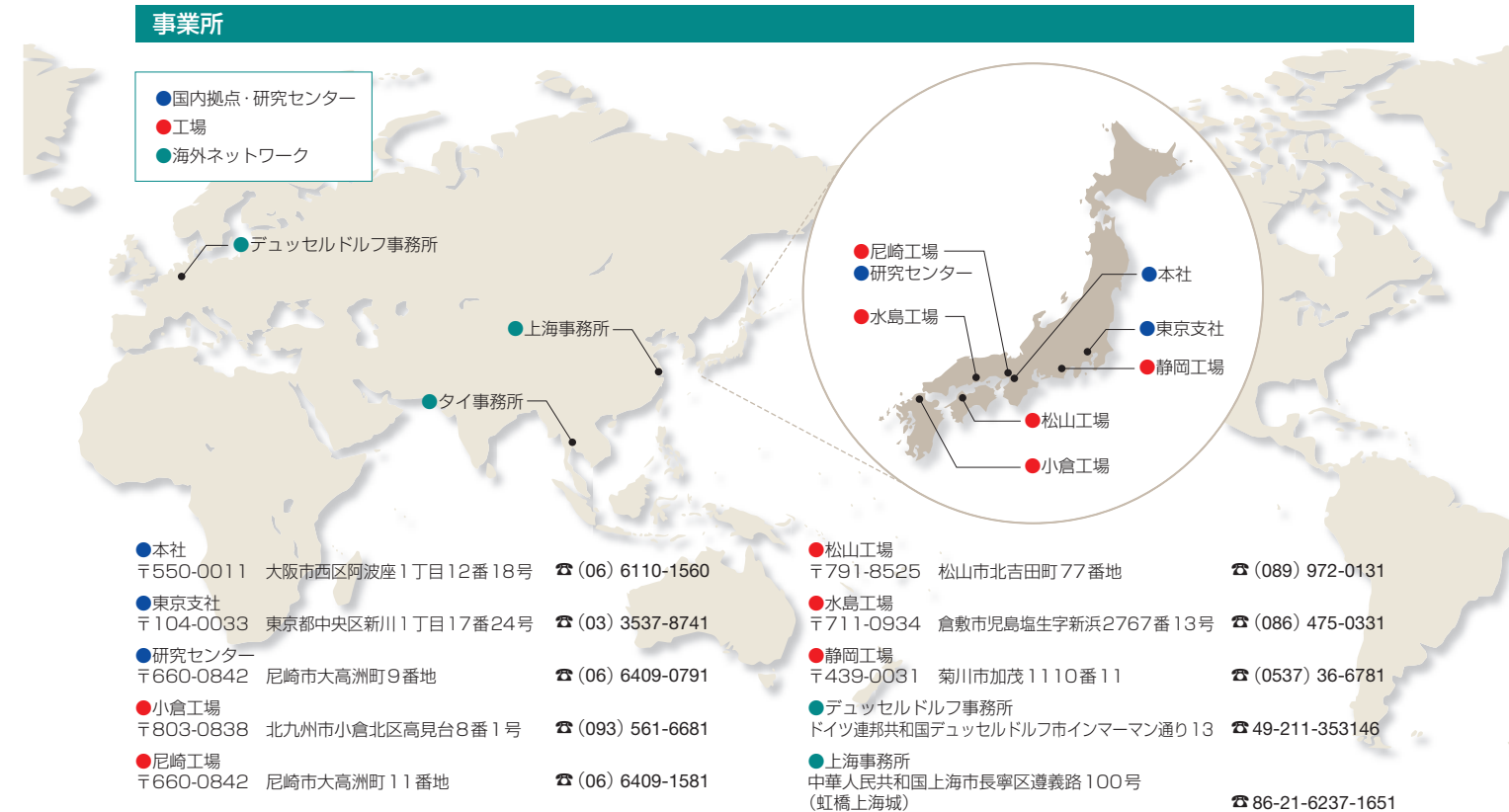
役員 (平成23年6月29日現在)

[取締役・監査役]

代表取締役 社長執行役員	佐藤 存
取締役 常務執行役員	山下 光一
取締役 常務執行役員	上出 修
取締役 常務執行役員	柴野 美知朗
取締役 上席執行役員	門間 政明
取締役 上席執行役員	内堀 貴弘
取締役 上席執行役員	遠藤 善一郎
常勤監査役	瀬川 恭史
監査役	浅岡 憲之
社外監査役	鳥家 秀夫
社外監査役	森 真二

[執行役員]

執行役員	阿部 哲生
執行役員	平井 直
執行役員	西本 光伸
執行役員	田中 幸男
執行役員	馬場 一郎
執行役員	雑賀 哲行
執行役員	竹尾 恒行
執行役員	堀 登
執行役員	加藤 善徳
執行役員	尾形 慎一郎
執行役員	古川 喜朗



子会社等の状況

国内

会社名	主要な事業内容
ダイソーケミカル(株)	化学製品の販売
ダイソーエンジニアリング(株)	化学設備の設計・施工
サンヨーファイン(株)	医薬品原薬・中間体の製造・販売
(株)ジェイ・エム・アール	資源のリサイクル
DSロジスティクス(株)	化学製品の運送取扱い
DSウェルファーズ(株)	健康食品の製造、加工販売
岡山化成(株)	化学製品の製造

海外

会社名	主要な事業内容
大曹化工貿易(上海)有限公司	機能化学品・電子材料等の輸出入
台湾大曹化工股份有限公司	機能化学品・電子材料等の輸出入
DAISO Fine Chem USA, Inc.	シリカゲルの販売、カラムの製造販売
DAISO Fine Chem GmbH	シリカゲル、医薬品原薬・中間体の販売